

(13) 県内全域の振興について

想定課題

国会等の移転に伴い、本県全体としての振興は図られるのか。

対応方向

国会等が移転すれば、県内全域が発展可能性が高いフロンティアである「東北」と経済・文化機能の中心である「東京」との間に位置することになります。

このため、人、物、情報、技術、産業などの交流・連携が活発化し、交通・通信ネットワークや都市の整備が進み、商工業の活性化や農林業の新たな展開などが十分に期待されます。

栃木県総合計画「とちぎ21世紀プラン」では、国会等の移転を特定課題と位置づけるとともに、本県の『県土づくり戦略』として世界に開かれた「国土交流拠点とちぎ」の整備構想を打ち出し、全国や海外を視野に入れた広域交流の中心として成長していくことを目指す、としています。

栃木県は、東北新幹線や東北縦貫自動車道による縦軸と北関東自動車道をはじめとする太平洋・日本海間の横軸との結節点にあることから、国会等の移転が実現すれば、県全体にその効果が波及し、那須地域のみならず栃木県全体の大きな発展につながるものと考えます。

